



## 第11回 ラテンアメリカ地域IRPA会合

(キューバ放射線防護学会)

第11回ラテンアメリカ地域IRPA放射線防護会議が、2018年4月23-27日に、人類遺産であり、現代世界の奇跡であるハバナ(キューバ)で開催されることをお知らせする。

このIRPA地域会議は、キューバ放射線防護学会が主催し、キューバの放射線関連の機関と組織、中南米およびカリブ諸国のすべての放射線防護学会の全面的な協力を受けている。また、IAEA、PAHO、WHO、FORO (Iberoamerican Radiological and Nuclear Regulatory Authority)、FRALC(ラテンアメリカとカリブ海地域の放射線防護連盟)の支援を受けている。

この会合の会長は、現在キューバ放射線防護学会の会長であるJuan Cárdenas Herrera氏、科学委員会委員長はRuben Ferro Fernández氏(キューバ)である。この委員会には、議会を支援する組織や機関のすべてから代表者が送られている。

この会議のプログラムには、基調講演、リフレッシュコース、口頭およびポスターによる論文発表、ラウンドテーブルディスカッション、パネルディスカッションや技術展示など、多くの活動が含まれる。若手専門家の表彰、IRPA 理事会会合、ラテンアメリカ放射線防護学会の代表者会議も予定されている。さらに、この会合では、幅広い社会的・文化的活動も実施される。

この会議は、放射線安全分野の専門家の中で科学的議論を促進し、放射線防護専門家間のネットワークを強化し、「安全文化、共に参加しよう」というスローガンのもとで、実務経験と科学知識を交換する絶好の機会になるだろう。会議の言語はスペイン語であるが、英語による発表も受け入れられ、世界各国からの参加者が歓迎される。

詳細情報は次のサイトを御覧頂きたい。[www.irpacuba.com](http://www.irpacuba.com)



XI CONGRESO REGIONAL  
de SEGURIDAD RADIOLÓGICA  
y NUCLEAR

*Cultura de seguridad, un compromiso compartido*

23 al 27 de abril 2018  
Palacio de Convenciones  
La Habana, Cuba

この“IRPA会報”の日本語訳は、IRPAの公式的な翻訳ではありません。そのため、IRPAはその正確性を保証するものではなく、またその解釈や使用がもたらすいかなる結果についても、一切責任を負いません。

This Japanese translation of "IRPA Bulletin" is not an official IRPA translation; hence, IRPA does not guarantee its accuracy and accepts no responsibility for any consequences of its interpretation or use.

### IRPA出版委員会

委員長 Christopher Clement • 副委員長 Bernard LeGuen • 会報編集担当 Chunsheng Li & Ali Shoushtarian • 加盟学会連絡担当 Adelene Gaw • ウェブサイト管理運営担当 Andy Karam & Chris Malcolmson • ソーシャルメディア対応担当 Sven Nagels & Chris Malcolmson • メディア情報収集担当 Sven Nagels, Young-Khi Lim, Takatoshi Hattori • プロシーディングアドバイザー Haruyuki Ogino



## 会長のブログ

(Roger Coates, IRPA 会長)

つい先ごろ、レイキャビクで「年次」理事会がありました。私たちの4年の任期のほぼ3分の1が過ぎたことを認識することは非常に重要ですが、私たちの行動計画は順調に進んでおり、多くのことが達成されました。特に、放射線防護体系に関する私達の意見表明の成果を皆様はすぐに御覧になることになるでしょう。放射線防護の体系においては、現在のやり方の中での課題に関する実務者からの視点や、改善への提言が非常に強力であり、明確であり、エキサイティングでもあります。どうぞ引き続きこの欄にご注目ください！

最近の多くの交流から、私達のパートナーである国際機関が、IRPAと協力したいと熱心に考えており、IRPAが真の意味で「放射線防護の専門家の国際的な声」とみなされていることがはっきりとわかります。もちろん、パートナーとしての評価は両方向のものです。2018年の欧州地域大会（ハーグ、6月4-8日）、アジア/オセアニア（メルボルン、5月20-23日）、ラテンアメリカ（ハバナ、4月23-27日）およびアフリカ（チュニス、我々の希望では9月6-9日）などの会合を開催しつつ、国際機関との連携を進めることとなります。これらの重要な会議のいずれかで、お目にかかりたいと心より願っています。

## 放射線源のセキュリティに関するタスクグループ - 更新情報

(Tony Peters、放射線源のセキュリティに関するIRPA タスクグループ議長)

放射線源に関するセキュリティは、線源が許可された人員によって安全に使用されることを確実にし、その一方、敵対者によって悪意を持って使用されないために、重要である。IRPAは2015年に線源のセキュリティに関するタスクグループ(TG)を設置したが、様々な理由でTGの活動は進まなかった。2016年に私はTGのリーダーシップをとり、加盟学会に、適任者を推薦するよう呼びかけた。現在このTGには、全世界から21名のメンバーが参加している。

放射線源のセキュリティに関するTGの目的は、強化されたセキュリティ文化および線源のセキュリティと安全との相乗効果の促進など、線源のセキュリティに関する放射線防護の実務者の間で、強い責任意識と知識の定着と認識を支援し、働きかけることである。

このTGは、現実には顔を合わせることの無い、ネットワーク上の組織である。我々は現在TGの活動内容について、とりまとめを進めており、まもなくIRPAのウェブサイトに線源のセキュリティに関するページを立ち上げる予定である。

TGメンバーのこれまでの貢献に感謝すると共に、この活動が長く続くことを祈る。



## 第50回日本保健物理学会年次総会

(日本保健物理学会国際対応委員会)

記念すべき第50回日本保健物理学会が、第16回日本放射線安全管理学会との共催会合として、2017年6月28日～30日に大分市ホルトホールにて開催された。

開会式では、日本保健物理学会会長の大分県立看護科学大学の甲斐倫明教授と放射線安全管理学会の会長である長崎大学松田直樹教授が、初めての合同会合に対して祝辞を述べた。また、組織委員会、プログラム委員会のメンバーおよびその他の合同会合の開催に尽力したメンバーに対して感謝の意が示された。

発表の主なテーマは、環境放射能、福島第一原子力発電所事故、保健物理の実践、放射性廃棄物、医療被ばく、緊急事態の予防と緊急時対応、教育、放射線測定、規制、適用、ラドンとロン、医療従事者の職業被ばく、放射線影響とリスク推定、線量評価などであった。教授、医療専門家、研究者、事業者、規制当局、学生など400人以上の参加者が集まり、最近の研究の進展について議論が行われ、放射線防護に関連する貴重な情報や経験が共有された。

今回の保健物理学会・放射線安全管理学会の合同会合では、二人の国際的な特別ゲストが招かれた。放射線文化・安全文化に関するシンポジウムでは、ICRPの副委員長でもある、長崎大学のジャック・ロシャール教授が、放射線防護専門家の課題について基調講演を行った。ロシャール教授はベラルーシと福島での経験をもとに、被災者から信用を得、信頼を獲得するための重要なポイントを指摘した。学会や団体の連携による放射線防護のための研究協力イニシアチブに関するパネルディスカッションでは、ICRP科学秘書およびIRPA広報委員長のクリストファー・クレメント氏がICRP、IRPA、UNSCEARなど国際組織の現在の活動の観点から放射線防護の課題と協力について講演した。

全体セッションでは、福島事故の被災地の復興支援や、日本原子力研究開発機構(JAEA)大洗研究開発センターでのプルトニウム232汚染事故など、最新の話題に焦点が当てられた。口頭発表では5つのセッションが並行して行われた。およそ100に上るポスターが掲示され、参加者の間で有用な議論が行われた。すべての参加者がこのユニークな催しを満喫し、2つの学会の緊密な連携が続くことを期待した。次の日本保健物理学会の年次大会は、2018年6月に札幌市で開催される予定である。





## 第11回クロアチア放射線防護学会シンポジウム

(Marina Poje Sovilj & Ines Krajcar Bronić)

第11回クロアチア放射線防護学会(CRPA)は諸外国の参加者とともに2017年4月5-7日にクロアチアのオシエクにて開催された。シンポジウムには、クロアチア科学研究所及び政府の研究機関、大学、健康と経済部門、20名の海外参加者(デンマーク、ハンガリー、モンテネグロ、ルーマニア、セルビア、スロベニア)を含め、90名が参加した。

この学会では、以下の分野:放射線及び放射線防護の科学に関する一般的な項目、放射線防護に関する倫理及び放射線防護文化、医療放射線防護、放射線の生物学的影響、線量評価、測定機器及び技術、放射線生態学、一般公衆の放射線被ばく、ラドン及び非電離放射線をカバーしている。シンポジウムの主テーマは「放射線防護における倫理と文化」であり、四名の演者とタイトル—Ines Krajcar Bronić (放射線防護の倫理原則)、Jelena Popić Ramač (医療における放射線防護文化)、Maria Ranogajec (上部呼吸器道の小児放射線医学における放射線防護の倫理)及びSanja Dolanski Babić (ザグレブにおける医学部の学生が物理教育の中で放射線防護について何を習得できるか)によるレクチャーによって構成された。

シンポジウムでは、35件の口頭発表及び26件のポスター発表があり、全61件であった。重要課題として、欧州連合の放射線防護に関するさまざまな法律、指令、勧告の英語からクロアチアの言葉への不適切な翻訳、放射線防護の専門家と医学物理分野の専門家との調和、クロアチア国内での放射性廃棄物の埋め立て地を探す問題、公衆と作業者のラドンの放射線防護に関するEU指令の履行が取り上げられた。この要旨集は、以下のサイトから入手できる。<http://www.hdzz.hr/simpoziji/>



(シンポジウム参加者のエクスカーションの様子。Batinaの戦いの碑の前にて。)



## アルゼンチン放射線防護学会(SAR) 50年以上に及ぶ放射線防護の強化

(Ana Maria Bomben, SAR会長)

アルゼンチンの放射線防護学会(SAR)は2016年に50周年を迎えた。過去50年間、SARは設立者の目的を達成するために尽力してきた。放射線防護を強固なものにするために、SARは広範な放射線防護の課題をカバーする出張講義の実施による教育と訓練、将来養成する立場になる若手専門家のための基本的な初期放射線防護と安全の専門的な訓練の提供、放射線防護に関する会議、シンポジウム、講義及びその他のイベントの運営及びこれらイベントに参加するアルゼンチンの放射線防護専門家や技術者の支援を行ってきた。例として、SARは学会メンバー、特に若い専門家にIRPAが開催する地域及び国際会合へ出席するための経済支援を行ってきた。

重大な放射線防護の専門技術の変換のひとつに、SARが企画・運営した2008年10月のブエノスアイレスでのIRAP12会合がある。2015年4月、SARは第5回ラテンアメリカIRPAを企画・運営した。現在、SARは毎年4月15日に特別会合を開催し、放射線防護デーを祝っている。

SARはラテンアメリカで放射線防護を促進しており、放射線防護に関する文書をスペイン語に翻訳し、自国の言葉で専門家に届けるとともに、SARウェブサイトを実際無料で公開している。そして、ラテンアメリカとカリブ海地域の放射線防護連盟(FRALC)の設立メンバーとして、アルゼンチン及びその地域の研究機関との関係を深めている。

将来の計画は、公衆の放射線防護の実効的なコミュニケーション方策の開発、2018年にキューバのハバナで開催されるラテンアメリカIRPA会合の後援、放射線防護の専門的知識の普及及び全ての放射線防護分野の重要な改善に関する活動の継続などである。

是非SARウェブサイトをご覧ください。[www.radioproteccionsar.org.ar](http://www.radioproteccionsar.org.ar)



SAR理事会(左から、Norbert Bruno, 副会長 ; Nora Mohamad, 理事 ; Ana Maria Bomben, 会長 ; Alejandro Lecinana, 理事)



## フランス放射線防護学会 (SFRP)

(Bernard LeGuen, IRPA事務局)

1965年2月18日に設立されたフランス放射線防護学会(SFRP)は、様々な背景を持った専門家が1300人近く所属している。メンバーには、工学技術者、研究者、開発者、技士、内科医、検査官、教授、学生、退職者などがおり、電離放射線または非電離放射線の防護に関連した様々な分野で従事しているか関心を持っている。

50年間、専門家同士が経験や実践を共有し、専門家と非専門家との間での情報交換を後押しし、放射線防護を促進すること、国際協力を強化すること、及び放射線防護における電離放射線と非電離放射線に関する様々な情報を普及することを学会の目的としてきた。

### SFRPは放射線防護に関する様々な分野をカバー

- 電離放射線及び非電離放射線の人体及び環境への影響
- リスクアセスメント及びリスク管理
- 放射線防護分野の戦略及び規制
- 技術及びノウハウ、良好事例や経験のフィードバック
- 情報と訓練
- 放射線防護の倫理的及び社会的な側面

SFRPの活動は、メンバーの多様性を尊重するとともに、関心ある専門的な良好事例を率直に取り上げることが目的としている。

### SFRPは様々な活動と報告書をメンバーに迅速に提供

- テクニカルグループ(電離放射線及び非電離放射線に関する研究と健康、環境、技術保護、高い技能を持った個人)、“ヒストリークラブ”及び若手専門家部会によって企画・運営する情報交換会や見学会
- 協力関係のある他のフランスや諸外国の学会と企画・運営する国内会議や円卓会議(年5、6回)。SFRPデーには、毎年、約2,200名が参加。

1966年に創刊された雑誌 'Radioprotection' は、いくつかの研究及び技術論文を掲載している(フランス語または英語)。この雑誌は国際的に認められ、IF 0.5以上を取得している。

### SFRPは国際的な放射線防護の代表機関であるIRPAに加盟

国際協力の強化のためにSFRPは国際対応委員会(IRC)を設立した。委員会はIRPAやその他の国際的な放射線防護に関する学会と特別な関係を持っている。

定期的に、SFRPは諸外国の学会との技術会合を企画・運営している(一部を挙げると、最近では、2010年にABR、2012年及び2016年にARRAD及びFS)。これらの会合は様々な話題に関する情報交換と経験を共有するための良い機会となった。

(次頁に続く)



(前頁の続き)

AIRP、SEPR及びRPS放射線防護学会とともに、SFRPは、放射線防護体系における倫理に関する2つのワークショップを企画・運営してきた(2013年及び2015年)。

SFRPは、ALARAの原則の適用に関するIRPAワークショップの企画・運営を先導してきた(2017年2月)。第2回ワークショップは2018年の秋に予定している。

英国及びオーストリアの若手部会とともに、SFRPの若手専門家部会は、能力の背景、現在の仕事での役職、安全かつ進展した将来を得るために、若手の放射線防護の専門家及び研究者に対する電子調査を開始した。

SFRPは今後もカナダ、チュニジア、ベルギーの学会の代表的な国内会議にフランスの登壇者を派遣し、かれらとの強い連携を維持していく。



[www.sfrp.asso.fr](http://www.sfrp.asso.fr)